ふるさと通信

北海道支部から

広島は俺にとっては第2の故郷

嶋津　廣大（旭川出身・松前町在住）

広島道産子会との出会いは、仕事で行き詰り生活はしたものの気候、習慣に中々馴染めることが出来なかった時期。新聞広告で広島そごう本館8階の催事場で秋の大収穫祭北海道展という記事を眼にした。久しぶりに北海道の農産物、海産物、スイーツなどを購入したいなぁと思い立ち行きました。その際広島道産子会という、大きな幟が掲げられて特設ブースがありました。興味深くブースを覗かせて頂いていたら今は亡き板倉さんや山崎さんや三好のお父さんが法被を着て大きな声で私に声かけして下さった。私の生い立ちなどを話しさせてもらった。北海道出身者で若い人は少ないが是非入会してみたらどうかと言って頂きました。即刻手続きをさせてもらい入会しました。近々当時の広島全日空ホテルで広島道産子会の総会と懇親会が開催されるから是非出席を検討して欲しい。その際に新入会員の紹介もするのでということでとんとん拍子に話しは決まり参加することになりました。総会や懇親会もつつが無く終わり、少しずつ会員と親しくなり、広島道産子会が実施される行事に携わることになります。

その中でも自分にとっては、とても思い入れがある行事。それは天皇杯全国都道府県対抗男子駅伝。広島道産子会員皆さんの叡智を結集し、数ヶ月前から大会当日迄準備する壮大なスケールに毎回圧倒されていました。

私は本職が海上自衛官なので訓練で長期出港中の年も多々ありました。時間をやりくりして参加させて頂いたことは只々嬉しい限りだし貴重な人生の糧になっています。公務員の身である私が、1年でこの時だけ物を売ることで対価を頂く。とても新鮮な気持ちと商品への愛情や敬意の心で、特設ブースで大声を張り上げて販売しました。帆立の姿焼き、じゃがバター、帆立の稚貝汁の販売。

新型コロナウィルスが猛威を奮い天皇杯も大会中止、規模縮小と紆余曲折を経て、私も本職の関係で約2年前に道南の松前に帰って来ました。

簡単に松前の紹介をしたいと思います。北海道内唯一の天守閣がある城下町。春には数百種の桜、戊辰戦争で土方歳三が松前で戦った際に腰掛けた腰掛岩。新撰組2番組長の永倉新八さん、書家で人間国宝の金子鷗亭さんも松前出身です。

私は広島道産子会で活動させて頂いた20年。行事の合間合間に会員の方々と故郷北海道のこと、広島のこと他愛もない話しをさせてもらいました。自分にとりまして人生の糧になりました。本当にありがとうございました。

来年は天皇杯全国都道府県対抗男子駅伝は節目となる第30回記念大会。必ず広島の地で会員皆さんと再開し協力し物販ブースで大いに盛り上げ大声を張り上げてお手伝いしたいと考えています。その際はよろしくお願い致します。

松前城のお堀端

箱館戦争で唯一消失を免れた龍雲寺の桜

龍雲寺の山門

第29回 都道府県対抗男子駅伝

佐野　健一（札幌出身）

道産子魂 ここにあり!! 昨年最下位から躍進19位へ

編集部から

駅伝ふるさと広場では4年ぶりにほたての姿焼きやぐる巻きソーセージなどの販売で従来の賑わいが戻ってきました。洞爺湖町からも以前と同じく強力な助っ人がはるばる馳せ参じてくれました。この方達の協力がなかったらと思うとぞっとするのは私だけではないと思います。駅伝慰労会でも盛り上げていただき、本当にありがとうございました。

やってくれました、道産子ランナー「七人の侍」。昨年最下位の成績からは脱出してもらいたい、選手の実績から期待できそうなメンバーに望みを託しましたが、大幅なジャンプアップで19位のフィニッシュ。

これは過去上位順位の3番目の成績。ただ過去2回の上位順位は菊池君、小椋君の二人が中心で頑張った結果の順位でした。今回はスタート以降ゴールまで一度も順位を落とさず合計20人抜き。これこそチームワークと全員の実力発揮のたまもの。

中でも6区吉田君は昨年の全国中学陸上3000m1位の実力を100%発揮、8人抜き、区間賞の走り。今回のチームMVPといっていいでしょう。北海道チームの区間賞獲得はこれまでわずか2人。太田君、菊池君に次いで3人目になります。

過去の大会で順位を落としていた4区、5区の高校生区間、今回は4区雪田君が4人抜き、エース級が走る5区は大杉君が順位キープ、この踏ん張りが吉田君の好走を引き出したと言えます。前半は我慢、後半で勝負の布陣を組んだ大井監督、ランナーの特長を生かしたこの采配も陰のMVPといえるでしょう。

さて当日のレースを振り返ってみましょう。1区佐々木君（北海道栄3年）スタート後のハイペースに巻き込まれたか後半失速して39位。

みんな今までの結果がスタート悪いとやばいかなとチョット不安がよぎりましたね～。

ここを踏んばってくれたのが2区斎藤君（ゆうべつ学園中3年）。混戦の中ペースを乱さずしっかり2人抜き。これがジャンプアップの始まり。実は斎藤君は選手紹介の時、こちらの応援の声に全く反応せず、前を向いたまま。ガチガチの緊張状態で思わず、おいおい大丈夫か？。そんな状態でもしっかり走ったのは昨年と同じ2区の経験が生きたのでしょう。3区は社会人、福山が本拠地のJFEスチール所属の岩崎君。初出場ですが北海道栄から城西大で箱根駅伝出場、JFEステールでは昨年の中国駅伝1区1位と好走。スピード区間をきっちり走って4人抜き区間18位。ここまで順調に順位を上げてきて33位。順調に順位を上げてきて33位ではあるけど、なんとなく微妙な順位。さあ、ここから上がるのか、下がるのか、勝負の後半。

その始まりの4区は雪田君（北海道栄2年）。昨年全道高校駅伝1区1位の実力者。任された区間、雪田君の力、レースのキーポイントと勝手に思ってました。すると、走る、走る、見事実力通りの力を発揮、4人抜き区間17位で順位を29位。やってくれたね！。ここまでくれば去年の順位はもう忘れられる。

さて各県がエース級を投入してくる5区を走ったのは大杉君（札幌山の手3年）。昨年全国高校駅伝1区粘りの走りで12位、札幌山の手の総合11位に貢献していました。この5区を向かい風の厳しい走りを強いられる中、ここでも粘りに粘って順位をキープ。

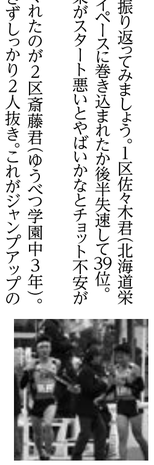
そこでいよいよ6区吉田君（上野幌中3年）の出番。前後6人くらいの混戦の中を抜け出し、向かい風など関係なくスイ、スイとスピードの違いを見せつけて区間1位8人抜き。去年補欠で走れなかったうっぷんを見事に晴らしました。ここで順位は21位。もう大丈夫、振り返ればここまで順位を誰も落としていない。7区小野君（帝京大4年）、こうなれば何とか順位アップで終わって!!小野君は高校、大学とほぼ1区ばかり走ってきたいわば1区スペシャリスト。帝京大では1年からエース級、ただここ2年余り低迷、今年は体調不良などもあり、箱根出場が？でしたが直前に復活、1区は譲って7区を走って区間2位。

広島で走るのは2回目。前回は史上最高順位16位の時の1区で18位、昨年は補欠でした。アンカーは初めていうこともありチョッピリ不安、でもさすがエース、心配無用でした。最後を2人抜きで締め、19位でテープを切ってくれました。あとでアンカーどうだったか聞いたところ、意外に走っていて面白いという感想。これからは1区を走ることはないのでアンカーで最高順位目指して走ってもらいたい。

今年補欠に回った高橋君（札幌福井野中3年）、鼻野木君（北海道栄3年）は実力は引けをとらず、いずれ広島で走ってもらいたい。

村上君（東洋大4年）は今年最後の箱根に出場、過去広島では中学、高校で3回出場。今年からなんとマツダの陸上部所属になります。広島在住は長距離ランナーでは初めて。地元での活躍におおいに期待しましょう。もちろん道産子会に入会して…

過去20回、25回と節目の時に最高順位を更新しているデータでいくと、来年30回目は最高順位で10位以内を目指して!!。



都道府県駅伝応援記

三上　了一（札幌出身）

令和6年1月21日。ますます天気。今年こそは昨年の名誉ある「ゲッパ大賞」をなんとか、脱出せねばならない。

今年は、道産子会伝統の「ホタテの姿やき」も復活した。ふるさと北海道の海の匂いがしてくる。都道府県駅伝は、この匂いがないと、始まらないのである。今年は道産子会の出店の場所も伝統のとおりに戻った。早くももう、列ができている。

原爆資料館まえでは、これも今年から復活した、各区間の選手紹介も始まり、各、県人会の爺さん達に交じり、若いオネーちゃんたちの黄色い声も聞こえる。だんだん駅伝らしくなってきた。

選手たちがバスに乗り込み順番に出発して行く。そろそろ、私もゲンチャリで出発せねばならない。私には秘策があった。今年はいちかばちか、コースをがらりと変え広電沿いにとり、全選手、完全応援を目指して見る。まず最初には、草津で、スタートの「北海道栄高校」佐々木を応援する。30位番台くらいだ。ここは、全国の俊足の集まるところだ。まずは上出来というところだ。

ここから、裏道を走って「井口」で、2番手の中学生、斉藤を応援に向かう。ところが、ここからが、思ったようにいかない。「井口」では、選手たちに抜かされ沿道の人たちに「もう行っちゃたヨ」と言われた。昨年より、おそくなってしまった。完全に私の作戦は裏目にでている。

そこで、最初は「阿品駅」まで行って5区のランナーを待ち、その後帰ってくるランナーを迎え入れて出発する予定だったが、大幅にコースをはしってその手前の広電の陸橋で5区の「札幌山の手高校」の大杉を応援し後広島まで帰ることにする。

待っていると大杉が走ってきた。順位を20番台後半まで上げているようだ。ここで不思議な事が起こった。「大杉」の足が、少しだけ宙を飛んでいるように見えた。「なんじゃコリャ」きっと幻や！」「しっかりせんか！ボケ！」独り言をいって、またゲンチャリに飛び乗った。

しかし、またまた追いつかない。「串戸」から裏道を通って一気に「草津」まで行くが、ここでもタッチの差で6区のランナーに追いつかない。もちろん、これは北海道のチームが速いということで私は少し悔しいがめでたいことである。

なんとか100m道路に入る直前にアンカーの「小野」の姿をとらえることができた。なんか、ずいぶん、前にいたようである。こりゃエゾー

結果から行くと、北海道チームとしてはこれまでの中で3位の好成績19位である。これは、補欠も含めた選手たちと、彼らを指導された先生方の不断の努力賜物である。そして、都道府県駅伝をこれまで走ってきたすべての選手にお礼を申し上げたい。

また、なんといっても、このたび、区間賞の栄誉に輝いた「吉田君」おめでとう！将来また頼むぜ！

という訳で、その晩の祝賀会でのサッポロビールは、ムチャクチャ美味かった！

観楓会に参加して

佐藤　晶二（釧路出身）

観楓会という女性会日帰りプチ旅行、令和5年11月19日（日）参加者16名でした。思えば、上蒲刈島みかん狩り藻塩作り体験バス日帰り旅行から4年ぶり。コロナで久々の開催でした。

宇品港よりフェリーにて江田島へ。少しの間船旅を楽しみました。中町港から徒歩で15分程ところにある川西農園でみかん狩り。島のみかん皆さんたくさんのお土産のみかんを手に、近くの甘さに感動し、楽しいひと時を過ごしました。ミシュランガイド2013に掲載された「めん処にしむら庵」で昼食。

名物のお蕎麦と稲荷寿司をいただき、おなかもいっぱいになったところで、4台のタクシーに乗り込み海上自衛隊第1術科学校、幹部候補生学校（旧海軍兵学校）へ移動。

海上自衛官OBの案内人によるガイドで校内にある教育参考館などを見学。旧海軍関係の資料が約1000点展示。

神風特攻隊の遺書や遺品、特に10代の方の遺書などその達筆さには感心させられました。またその内容には、心を打たれ涙が浮かびました。

また、かっこいい幹部候補生ともお会いし、一緒に記念写真に納まりました。

コロナで行動が制限されていた数年、久しぶりの日帰り旅行、天気も良く存分に楽しむことができました。次回も楽しい観楓会期待しております。

どうなんかい？開催しました！

道南会　陶山　剛（白老町出身）

2023年10月1日（日曜、正午前の八丁堀。中華料理店、「長安」が道南会の集合場所。

ここは小西隊長御用達の店、春の道南会も同じく、「ここ「長安」で開催されました。

当日は10名が参戦、まずは全体写真から。隊長ご夫婦が持参された横断幕「広島道産子会 道南会」をバックにはいポーズ、そして乾杯と相成りました。

新入部員は2名、中西大輔さんと金崎由美さんは広島修道大 国際コミュニティ学部 教授、三上貴教さんのご紹介、中西さんは広島修道大の健康科学部の教授。金崎さんは中国新聞社の記者、部署はヒロシマ平和メディアセンター。新たなメンバーを交えて始まりました。

まずは「函館編」。マツダの子会社、マツダモーター（オーストラリア現法）で社長を務められた上野尚春さんは函館のご出身、母校の函館西高校は5つ上が大御所北島三郎、こぶしの効いた節回しは当時から一目置かれていたとのお話。初登場の中西さんは函館北高校卒。同郷のお二人、浜言葉で相通じるようでした。

「登別」ご出身は金崎さん。室蘭栄高校から北大へ、ゼミ仲間が中国新聞社の入社試験を受けると聞き、「うらけて 願書を出し今日至るとのこと。新聞記者志望だった彼女は「仁義なき」広島の街が最初は怖かったとのエピソードも。その日、横に座った鈴木睦子さんとは山菜談義、ポリポリ、ラクヨウキノコ、ネマガリダケで盛り上がってました。

その鈴木さんと伊藤勇さんは、「平取町」と、「振内町」出身の間柄。鈴木さんからは平取のスズラン群生地、伊藤さんからは日高連峰幌尻岳と沙流川のお話。現在、平和公園で週三回、修学旅行生に語り部ボランティアをなさっている伊藤さん、噂の、「伊藤節」で終始、道南会メンバーを圧倒されておられました。

最後に「苫小牧編」。苫小牧東高卒の3人があれやらこれやらとよもやま話。卒業順に小西隊長、中山幸晴さん、そして三上貴教さんの順。

ダンディ中山さんは三菱重工で長く火力発電所建設に従事、遠くはブラジル、ペネズエラ、ナイジェリア、そしてサウジアラビア等、世界各地で活躍された国際派。綺麗にそろえた口髭はサンバの香りが漂います。その3人に割って入られたのが前述の、苫小牧西高卒伊藤さん。ライバル苫小牧東高OB勢に囲まれるも徐々に「伊藤節」が優勢になっていきました。それでも共通するのは苫小牧愛。ホテルニュー王子、王子サーモン、王子総合病院、王子ネピア等など苫小牧は王子の城下町。「ヨイトマケ」の三星が作る給食パンは4人に相通じる思い出であったよう。仲良し4人組でした。

かくゆう私も2年余り苫小牧にアパートを借りた時期がありました。銀行の破綻後、17年余を経て再び道内企業へ、室蘭に包まれた初夏の夕暮れ、沖に停泊する貨物船から聞こえる霧笛の響きは映画のワンシーンのよう、苫小牧は浪漫に満ちた港町なのでありました。

小西隊長、次回は「どうなんかい」？

以上、道南会のご報告でした。

第29回都道府県対抗ひろしま男子駅伝応援（記）

佐武　進（苫前町出身）

1月21日、例年の楽しみ駅伝応援をする為に住路3区と復路4区の宮島競艇場北（JR線側）にて「ふる里応援団」の幟と選手名を書いた白の裏紙を持って出かけた。時々曇りの絶好の駅伝日和で、懸命に走る3区の岩崎選手・4区の雪田選手に応援仲間とはち切れんばかりの声援を贈り（写真①）区間が進む毎に順位が上がる様をスマホで見聞きし応援の醍醐味を感じ元気を戴いた。

第1回大会から駅伝コースの最西端4区を受け持ち応援して居るが総合順位25回大会17位・20回大会18位に次ぐ今回19位は来年の30回大会に期待が膨らみます。

遥々雪国からやって来る中・高生の励みに成ればと中学生区間（広島市西区井口・2区6区）と高校生区間（廿日市市地御前・3区5区）沿道に仙野男（「北見市出身」さんと駅伝前日まで応援シートを掲げました（写真②）偶然5区を走る大杉選手（山の手高）が試走中で一緒にパチリ）。

広島道産子会はこの駅伝行事の為、発着地点の平和公園前「駅伝ふるさとひろば」にて洞爺湖町のホタテ販売などバザーの協力、選手団の来広お出迎え、開・閉会式や出発式での声援を贈り、レース後には選手団との懇親会も行い、素晴らしい成果を上げています。

遠方など応援参加できない方には駅伝事務局のHP「ふるさと応援掲示板」にメッセージ声援を贈る事も出来ます。来年も駅伝応援で元気を!!

写真①

写真②